

平成22年度第4回都筑区地域福祉保健計画推進委員会 会議録

議 題	<p>1 第2期都筑区地域福祉保健計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区民意見募集結果について ・ 「第2期都筑区地域福祉保健計画（原案）」について <p>2 その他</p>
開催日時	平成23年2月1日 午後1時～午後2時30分
開催場所	都筑区役所2階 研究室
出席者	<p>大山学委員長、岩嶋伸幸副委員長、志村一郎副委員長、柴田正委員、佐藤栄子委員、石田宣子委員、加藤和夫委員、大貫洋子委員、片岡勇司委員、花田清廣委員（10人）</p>
欠席者	盛淳子委員、蛭名さゆり委員、川原美智子委員（3人）
決定事項等	<p>1 第2期都筑区地域福祉保健計画</p> <p>（1）計画素案の区民意見募集結果について審議し、了承された。</p> <p>（2）「第2期都筑区地域福祉保健計画（原案）」について審議し、了承された。</p> <p>2 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回開催日程（平成23年3月15日）について決定した。
議 事 等	<p>1 第2期都筑区地域福祉保健計画について</p> <p>（1）区民意見募集結果について【資料1】</p> <p>長澤係長から、都筑区地域福祉保健計画素案の区民意見募集結果について説明がなされた。</p> <p>【意見・質疑等】</p> <p>委 員：意見をくれた方は、興味がある方が多い。</p> <p>委 員：建設的な意見が多いように思う。</p> <p>事務局：実現していきたいという前向きな意見が多いと感じている。</p> <p>委 員：意見募集の結果はどのように知らせていくのか。</p> <p>事務局：いただいたご意見はホームページに公表していく。</p> <p>委 員：計画の成果指標についての意見があるが、どうやっていくのか。</p> <p>事務局：各年度の運営方針でも成果指標を設定しており、各地域で自主的な取組が進んだかどうかを指標としているが、指標の設定は難しいと感じている。今後も、その点については、留意しながら検討を進めていきたい。</p> <p>委 員：犯罪発生率を見ても、都筑区は東京都の2分の1。地域の取組が進んでいるからこそ、犯罪も起こりにくくなっていると感じている。計画については、区役所や社会福祉協議会などの計画は評価がしやすいとしても、地域の取組となると評価は難しい。周辺のデータから読み解いていくのが良いのではないか。</p> <p>委 員：数値化は難しいが、自治会の組織率や災害関係の活動への出席者など数値化できるものはしていき、評価に活用していくと良い。</p>

(2)「第2期都筑区地域福祉保健計画(原案)」について【資料2】

長澤係長から、第2期都筑区地域福祉保健計画(原案)について説明がなされた。

【意見・質疑等】

・計画原案全体について

委 員：よくできていると感心した。

委 員：原案は一冊の本としてまとめて発行するのか。

事務局：原案は考え方をまとめたものとしてある程度発行する予定だが、たくさん配るわけではなく、年度内に各地区別の計画リーフレットを発行し、新年度からは原案の概要をまとめた計画概要版も発行していきたい、PRを進めていきたい。

委 員：地区別計画の統計データに、自治会町内会の加入世帯数が入ると、より良い。住んでいる地区の世帯数と自治会加入率の経年変化をグラフにしたところ、転入者が増加し世帯数が増えているにもかかわらず、自治会加入世帯数は変わらないことが顕著に分かった。

事務局：検討していきたい。

委 員：データも良くできていて、感心している。

事務局：100選の取材を通して、アイデアや工夫についてのご意見をいただいたり、様々な活動の取材ができたことが大きい。

委 員：今後100選はどうしていくのか。

事務局：100選よりも部数を増やした地域情報紙を作成、配布をして町内回覧等で情報を届けるとともに、広報よこはま、ケアプラザ新聞、社会福祉協議会の広報紙の中でも、地域の情報を発信していく。地域情報紙は、ケアプラザと連携して未加入マンションにも配布していきたい。

委 員：とても良くできていると思うが、今後は区役所の中で連携をとっていけたら良いと思う。2月16日からの区民ホールパネル展でも、自治会町内会をPRするパネルや加入促進のパンフレットなど、若い世代にPRするものを用意してはどうか。

事務局：所管課と調整したい。

委 員：最終ページに計画推進委員会の名簿があるが、現委員の任期は3月31日までなのか。

事務局：現委員のみなさまの任期は3月31日で終了となる。

・子どもたちの参加について

委 員：中高生の参加という点では、所属する連合自治会の防災訓練では、近くの高校に出てきてもらった。地域とともに歩もうとするととても積極的な姿勢がある。中学生にも防災訓練に参加してもらったが、おにぎりづくりなどを役割でやってもらった。こういった経験が子どもたちの自信にもつながると思う。また、小中高が連携して公園の清掃もやってくれている。高校一年生が小中学生を引率してゴミ拾いをしてくれており、とても感動した。子どもたちを含め、環境への意識が高まって、駅周辺もポイ捨てが少なくなったように思う。

委 員：子どもたちに体験してもらうことはとても良いこと。中高生の取組を発表してもらうのも良いのでは。

・自治会町内会の加入促進、若い世代や転入者への情報の周知について

委 員：新しくH I Vの予防接種などが始まるが、子どもの予防接種をしにくる若い世代は小児科のホームページから情報を得ていて、広報よこはまをもらっていない人が多い様子。どうやって参加するか分からない人もいる。新しく引っ越してきた人に、自治会に入ると広報よこはまが回ってくるといったメリットがあるということを教えていかないといけない。

委 員：計画には若い人に情報がいかないこと、自治会町内会に入っていないことが書かれているが、通りがかった道で若い人同士がよく集まっておしゃべりをしていて、そういう人にどうやって情報を知らせて行くかが課題だと感じる。

委 員：赤ちゃん会に来ている人にも自治会町内会を宣伝してはどうか。

事務局：所管課に伝えていきたい。

委 員：いろいろな機会を探して、第2期計画を推進して欲しい。新しい人をどう増やしていくかということが課題だと思う。

委 員：都筑区は集合住宅が多く、つながりが薄い。だからこそこういう計画をどんどん周知することが必要。

委 員：集合住宅にも管理組合があるが、それは自治会町内会と別。すべての管理組合を自治会町内会にできたら良いのだが。

事務局：ケアプラザの情報紙は集合住宅にポスティングしていく。未加入で要介護の方とつながる手がかりにしていきたい。

委 員：加入促進の取組が広がってきている。

委 員：幼稚園でも自治会の加入呼びかけが有効だと思うが、幼稚園をどう巻き込むことができるかが課題と思っている。

委 員：赤ちゃん会は口コミで広がっているが、地域も幼稚園の若いお母さんをどう取り込むかが課題。

委 員：子育てサロンでは、自治会に入りたいという人がいたら、丁寧に教えられるが、赤ちゃん会ではどうなのか。広報紙1枚でも渡せば中には関心を持つ人もいるのでは。

事務局：所管課に伝えていきたい。

委 員：瀬谷区で悲惨な事件があった。妊娠したときから不安は多く、大変な思いをしているのに、生まれてからしばらく経たないと区役所や地域とも関わりを持たない現状がある。里帰りで出産をして、落ち着いて戻ってきても地域ではつながりがなく、孤立してしまう。妊娠してすぐ、母子手帳をもらった段階で、あなたの地域には相談できる人がここにいるとか、紹介しておく必要がある。ホットラインをつないでおけば、早い段階でつながりができる。出産後すぐは、相談するゆとりもない。

委 員：平成22年には、民生委員児童委員を窓口で紹介する取組をはじめた。また、平成23年度からは妊娠期からの不安を解消していくため、市立保育園の妊婦を受け入れる事業を始める。保健師が離乳食の作り方を教えたり、ボランティアの養成を進めたいと考えている。

委 員：おなかにいる段階からの声かけが大事。

委 員：地域でも、妊娠中の人を誘うことなどはできる。お互いの情報交換をするシステムがあると良い。

事務局：区役所窓口でも地域の取組を紹介していきたい

議 事 等

2 その他

あいちゃんボランティア推進事業について

委員：11月からの3ヶ月で811人の登録があった。メールマガジンも200人が登録。今後、小中学生一人ひとりにも、チラシ等を配り、PRしていく。(小学生は5年生から)

<次回の推進委員会開催日程>

平成23年3月15日(火)13:00~14:30 都筑区役所2階研究室